



愛すべき暮らし、建築、デザインを発掘！

LIXIL ギャラリー / 大阪
生活・文化をテーマに、独自の目録・調査によるオリジナル企画を発信し続けるLIXILギャラリー。年4回、銀座と大阪2会場を巡回し、これまで累計160以上のテーマを扱い、歴史や日常のなかに埋もれてきたトピックをすくい上げてきた。2018年は、諸国の駅舎を調べ歩いた職人・石橋孝作の業績や、富士屋ホテルの「営繕さん」の裏方仕事にスポットを当てたなど、「次はなにが出てくるのか？」という問いかけをきっかけに、常に予想の斜め上をいく、今後の企画展開から目が離せない！

「空間づくりのエンターテイナー」吉田謙吉の魅力に迫る
企画展 12/7(金)～2019年 2/19(火) 吉田謙吉と12坪の家ー創る空間の秘密ー
明治に生まれ、今和次郎とともに考現学を立ち上げ、舞台美術や装丁、文筆家として多岐な活躍をみせた吉田謙吉。戦後、東京・港区飯倉(現・麻布台)に建てた12坪の自邸を、舞台と観客席がある「劇的空間」に設計。本館では、そんな「愉快な家」の秘密を紐解き、約140点の資料とともに、アイデアとユーモアにあふれた謙吉の「暮らしの提案」を紹介する。



ほかにない企画にこだわり、ユニークな企画を打ち続けるディレクターの原田麻生さん。できるだけ開いた建築をテーマを探るようになっています！また探検から展示まで全てに関わっている、おもしろい企画にこの人あり！※写真の展示は11月20日で終了しています



西田謙吉と12坪の家
吉田謙吉の自邸復元模型
▲ギャラリーは20坪ほどのワンフロアだが、企画展の内容とリンクした展示レイアウトにこだわり、毎回しっかり世界観を盛り込む。12/7(金)～の企画展では、12坪の家のステージの舞台装を造る、舞台装置のような場所に！



▲当時の建築素材を随所に残しつつ、ガラスのスタンドグラスやライトは新たに調えるなど、遊び心に溢れた空間。なかでも、壁の真ん中に敷かれた透明アクリル板から、昔ながらの防塵「跡」を覗き込む体験もできる

ガラスに魅せられて、北浜から124年目の挑戦！

CuteGlass Shop and Gallery
明治28(1895)年の創業以来、大阪でガラスびんをひとすじに作り続けてきた日本精工株式会社。今年7月北浜に、ガラスの魅力を発信するショップ&ギャラリーをオープン。大正時代の古民家を改装し、裏は吹き抜けにして、コレクションを展示するギャラリースペースに、住居と土間スペースは「自社製のガラスびん」を1個から購入できる場をとの思いつきから、自社のガラスびんを販売するショップに生まれ変わった。販売されているガラスびんは約120種類。流行りのハーバリウム、ジャム瓶、花瓶、ピッチャー代わりに…用途はアイデア次第でいくらでも。ガラスびんの新たな可能性が広がっていく場となりそう。



懐かしのガラスびんコレクション
▲ショップで販売されているガラスびんは1箱100円～で、キップは別売(20円～)。クリスマスやプチギフトにもぴったりの、電器ま型のガラス瓶や、ペーパーウェイトなども



創業者の熱いハート、一粒に込められた思いにせまる
江崎記念館
江崎グリコ本社の敷地内にある記念博物館。グリコの生みの親である創業者・江崎利一ゆかりの品や、グリコの社史資料を展示。約4000点におよぶ豆玩具(おもちゃ)のコレクションや、「映画付きグリコ自給販売所」実演など親子で楽しめるコーナーも。常設展のほか、年2回程度、特別展も開催される。西淀川区歌島4-6-5/R東海環本線歌島駅から徒歩16分/R東横線御島駅から徒歩18分/【見学無料】平日は要予約、第1・3土曜は予約不要/10:00～16:00(最終入館15:30)/休館:第2・4・5土曜・日曜、祝日、年末年始(12/29～1/6)/☎06-6477-8237

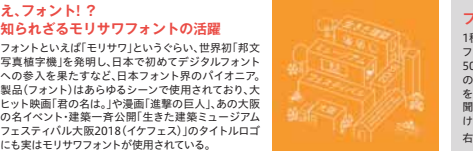


おもちゃに歴史あり、グリコブースにモデルあり！
企画展 12/4(火)～25(火)「江崎グリコ×金栗四三展」
「2代目ゴールデンマーク」のモデルの一人、「日本マラソンの父」と称された金栗四三ゆかりの品を展示。大会メダルや日本人として初めて参加した五輪で着用したユニフォーム、進行時に着用していた足袋(1)などから、その偉大な功績を辿る。



フォント界のバイオニア「モリサワ」の華麗なるコレクション
1種類のフォントを作るのにかかる時間は約2年。現代においてもフォントのデザイン超こしはすべて手書きなんだそう。ペースとなる500字は1人が担当し、あとは複数人で手分けして完成させるが、その手数は最大で約2万字を越える。読みやすさ・バランスの第一性を追求し、最後の調整まですべての目と手で行う。有料フォントと聞いても普通はピンと来ないが、こうしての手で膨大な時間をかけて作られている製品だとおぼえらる。

MORISAWA SQUARE
大国町に本社を構える、文字をデザインする「フォント」製作大手のモリサワ。そのなかに、予約すれば誰でも見学することができるショールーム&コレクションスペース「MORISAWA SQUARE」がある。室内は、モリサワの歴史を辿るヒストリーゾーンと、文字の誕生を辿るコレクションゾーンとに分かれており、コレクションゾーンには、歴史的な文字が刻まれた紀元前の出土品から、世界に48冊しかない「4行聖書」の一面、「字間のすけ」初版本など宝物も多く展示。なかでもウィリアム・モリスの私家版印刷所「ケルムス・コト・プレス」全行本が揃ったコレクションルームは世界的にも珍しく、国内外から研究者が訪れるほど。世界一美しい書物として知られる「チューサー著作集」の実際は必見！



え、フォント!? 知られるモリサワフォントの活躍
フォントといえば「モリサワ」というくらい。現代「初文写真書体」を発売し、日本で初めてデジタルフォントへの参入を果たすなど、日本フォント界のバイオニア。製品(フォント)はあらゆるシーンで使用されており、大ヒット映画「君の名は。」や漫画「進撃の巨人」、あの大手イベント「建築一斉公開」生きた建築ミュージアム「フェスティバル大阪2018(イケア5)」のタイトルロゴにも実はモリサワフォントが使用されている。

フォントはどのように作られるのか?
1種類のフォントを作るのにかかる時間は約2年。現代においてもフォントのデザイン超こしはすべて手書きなんだそう。ペースとなる500字は1人が担当し、あとは複数人で手分けして完成させるが、その手数は最大で約2万字を越える。読みやすさ・バランスの第一性を追求し、最後の調整まですべての目と手で行う。有料フォントと聞いても普通はピンと来ないが、こうしての手で膨大な時間をかけて作られている製品だとおぼえらる。

右字:モリサワフォント A1ゴシックM(2017)

日本最古の製薬会社と道修町のあゆみ



田辺三善製薬史料館
1678(延宝6)年創業、くすりの町・道修町に本社をかまえる田辺三善製薬の史料館。見どころは、明治初期の店先の忠実に再現したシアターホール。表開口約8mの店先で、十二代田邊五兵衛が来場者を出迎えてくれる。ほかににも社史を辿る歴史資料や、わくわくするような未来の新薬を知るコーナーなど、バリエーション豊富な展示で、目と手で感じる世界を垣間見ることが出来る。

▲東南アジアとの貿易を手がけた大塚の業者をルーツにもつ田辺三善製薬。徳川家康より交付された朱印状から、創業当時の看板、時代を反響する懐かしい家産品のボスターまでさまざま

▲人体をかたどった立体的なスクリーン「パッチャー科特新編」くすりの効力を反響する懐かしい家産品のボスターまでさまざま

偉大なサーモテクノロジーの進化をたどる



まほうびん記念館
今年5月、象印マホービン創業100周年を記念し、まほうびん業界全体の歴史をまほうびん記念館がリニューアルオープン。ヨーロッパで発明されたまほうびんが、明治末期に日本に輸入されて各家庭へと普及するまでの変遷を、他社製品も合わせて展示。一皿膳、花柄ポットシリーズや、レトロ家電など、今もおなじみでデザインもまほうびんが家電製品に、世を越えて盛り上がること間違いなし。

▲貴重なコレクションルーム「まほうびんの家」や、真空のふしが分かる体験コーナー、懐かしのCM展覧を楽しむシアターも

まほうびんと大阪
まほうびんが日本で製造されたのは大正初期、中びんがガラスだった頃。大阪はガラス産業が盛んだったため、中びんを作る優秀なガラス職人が大阪に集中し、まほうびん工業の中心地にもなった。創業者の1人でもある市川三郎も、もとは電球製造の職人で、技術的に進じるものがあり、兄の銀三とともに「市川兄弟(けいてい)商会」を設立し中びん製造に着手した。

ゴルフスクールで時短スキルアップ
～桜宮ゴルフクラブでおためしスクール体験～

ゴルフスクール体験の広告。桜宮ゴルフクラブで体験できることを紹介。特徴として「飛距離」が伸び悩んでいる、おためしスクール体験を受けてみる、スタッフの数も多くて設備も充実している、試せる、選べる、寄り添う、おためしスクール体験は、週140本のゴルフスクールから好きな時間、気になるプロのレッスンを、お選びいただけます。具体的なアドバイスで、ミート率アップを実感できました。